

## 趣旨説明

わが比較思想学会は二〇二三年（令和五年）に創立五十周年の記念の年を迎える。

その五十周年の記念事業を企画するプロジェクトチーム（座長、中島隆博東京大学教授）の会議の中で、「五十年前の創立期・黎明期にかかわられた諸先生方の思いを、記録として残すのも大きな記念事業となる」という意見が寄せられた。

学会創立にあたっての趣旨は学会ホームページや創刊号などでしるふことができるし、今までの記念の節目においても語られてきた。そのおかげもあって、こうして『比較思想研究』本号（第四八号）においても充実した研究報告がされている。しかしながら、ありがたいことに本学会も世代交代が順調に進む一方で、学会を創立された各先生方がいだかれていた「体温」を直接知る者が少なくなってきたのも事実である。

この先、学会を運営していくのにあたり、七十五周年、百周年を迎えるべく、創立に直接かわられた諸先生方や、黎明期の頃からかかわられた諸先生方の思い出を語っていただき、そのあつ

き思いやご苦勞を聴くことで、比較思想の原点を再確認するとともに、今後の糧としていきたいと、われわれは考えた。

はじめ、本学会の設立時・黎明期を知る諸先生方の座談会を催し、それを活字おこしすることを企画したのだが、本年度もまたコロナ禍により実現がかなわなかった。今回は、渡辺明照先生と保坂俊司先生から原稿を頂戴した。計三回と連続するこの企画の第二回目である。

（編集部）